

JPOP-VOICE 統合失調症

運営母体: 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター JPOP委員会

社会に向け健康医療情報を発信する広報モデル事業

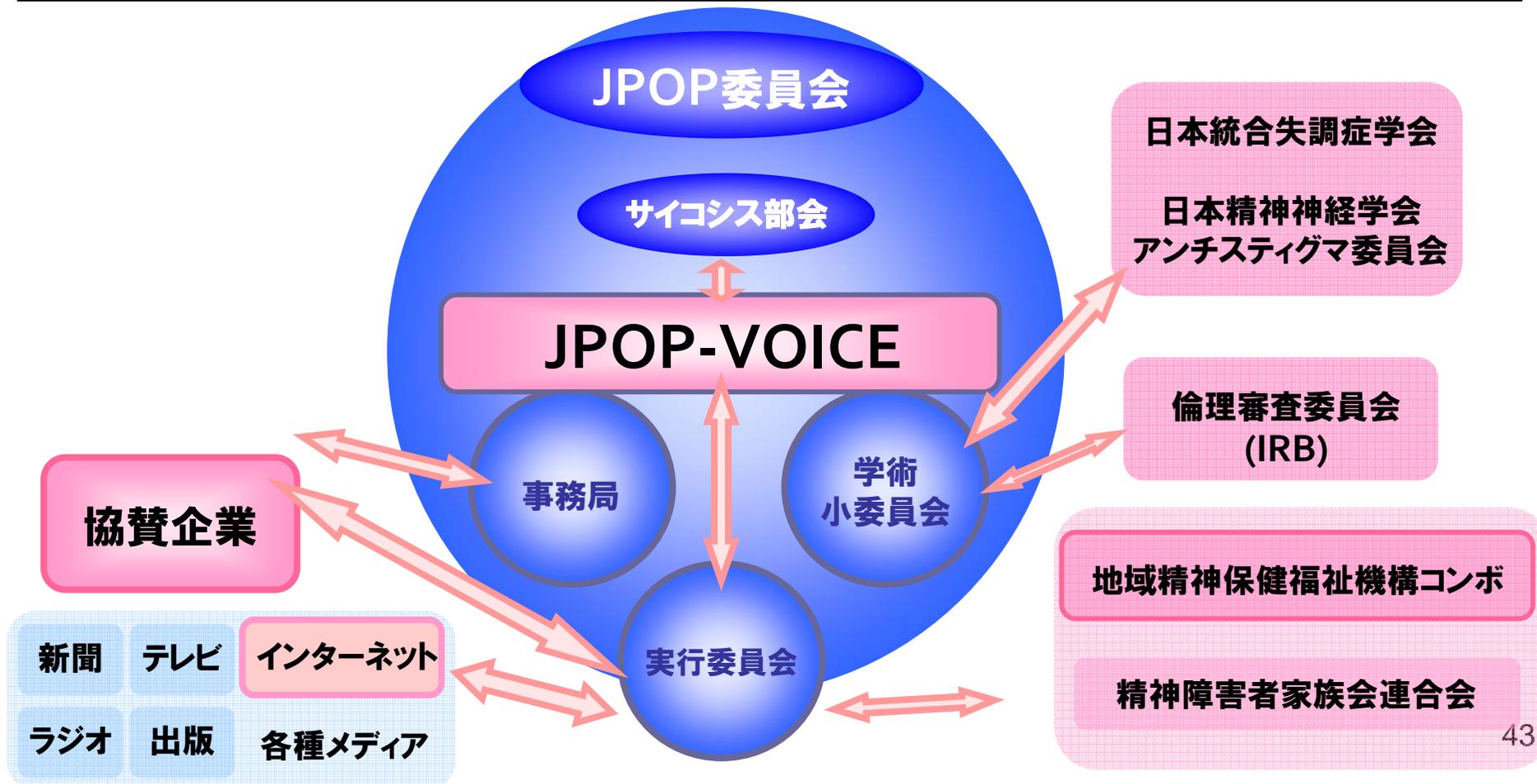
内容: 病気に向き合う患者, 医療者, 支援者の体験を動画で紹介するウェブサイト

・現在公開中サイト: 「がんの痛み」

・H21年4月30日(木)に公開開始: 「統合失調症」, 「大腸がん」

・今後, 「うつ」をはじめ, 他領域にも拡大予定。

HP: 「JPOP-VOICE」で検索





早期支援につなげるための 学校における啓発授業 ～ 中学卒業前啓発授業プログラム～



- ・ 学校での精神保健や精神疾患に関する教育の導入は重要な課題である。
- ・ 豪州の学校精神保健プロジェクト *MindMatters* の教材『精神疾患を理解する』を参考にし、精神疾患を学習するための授業案、テキストを開発した。
- ・ 生徒が精神疾患に関する理解を深め、スティグマを減じ、早期に支援を求めること、相談を受けた際の適切な対応を促す。
- ・ これまで不足していた精神保健や精神疾患を教育する具体的な指針と教材(特に早期支援の重要性の理解)を開発し、それを用いて中学三年生を対象とした授業プログラムを実施している。

平成20年度厚生労働科学研究こころの健康科学研究事業

「思春期精神病理の疫学と早期介入方策に関する研究」(主任研究者:岡崎祐士)

分担研究者:針間博彦、研究協力者:白井有美

文部科学省における精神保健に係る取り組み例

1. 学習指導要領に基づく保健教育
2. 学校保健安全法に基づく保健指導および健康観察
3. 子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業
4. 教職員向けの手引き等の普及
 - ・「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応～メンタルヘルスを中心として～」
 - ・(参考)「子どものメンタルヘルスの理解とその対応」((財)日本学校保健会)
5. 子どもの心のケアシンポジウム
6. その他

現状及び課題

○平成16年の精神保健医療福祉の改革ビジョンにおいては、国民意識の変革について「精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかりうる病気であることについての認知度を90%以上とする。」との目標の下、広く国民を対象に「こころのバリアフリー宣言」等の普及啓発を行ってきたところ、当該目標については82.4%(平成18年)と一定の成果が認められている。

○精神疾患の理解については、特に統合失調症に関する理解が乏しいことが、成人一般、若年層、保護者等を対象とした調査から示唆されている。

○早期発見・早期支援の観点からは、学童期等の若年層とそれを取り巻く者について重点的に啓発を行うことが求められる。

○精神疾患等の新聞報道に関する調査においては、統合失調症について統合失調症そのものや地域支援に関する報道が増加したものの、精神科や統合失調症がHIV/AIDSや糖尿病に比べ犯罪や事件と関連付けて報道される傾向、予防や研究に関する報道が少ない傾向がみられた。

○地域移行を円滑にする観点からの普及啓発については、現に地域移行を進めることや、精神疾患を自らに関係ある課題として認識を広げること等を通じて普及啓発を進めるべきとの指摘がある。

○なお、情報環境の変化等を背景に、行動変容に影響する要因を踏まえつつ、「だれに」「何を」「どのように」伝えるかを明確にした効果的な普及啓発が求められている。

検討の方向

- 「こころのバリアフリー宣言」のような国民一般を広く対象とする普及啓発から、疾患や年代、対象者といったターゲットを明確化した普及啓発に重点を移していくべきではないか。
- 早期発見・早期支援の観点から、学童期等の若年層とそれを取り巻く者を対象として、精神疾患の発症早期に適切に相談支援や診療を受けられるために、学校教育分野との連携や必要なサービスの確保を図りつつ、適切なメッセージと媒体による普及啓発を行ってはどうか。
- 精神疾患の新聞報道に関する調査において、犯罪や事件と関連付けて報道される傾向、予防や調査・研究に関する報道が少ない傾向を踏まえ、下記情報源を活用しつつ、報道関係者に向けたものを含め、治療法、支援策や研究成果等についての情報発信を充実させるべきではないか。
- 精神疾患とりわけ統合失調症の正しい理解を医療関係者や社会的影響力の強い者も含め各層に促すため、対象に応じた普及啓発における基礎情報とするために、他の疾患・領域を参考にしつつ、インターネット等で正確で分かりやすい疾患の情報等を提供できる情報源の整備を検討してはどうか。
- 地域移行を円滑にする観点からの普及啓発については、上記の取り組みを進めることに加え、地域移行を着実に実施するとともに、当事者の視点を重視した啓発や当事者とふれ合う機会の充実などを図ってはどうか。